

授業科目	看護学					実務家教員担当科目	○				
単位	4	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期				
担当教員	増本 由紀子										
授業概要	<p>看護学の基礎を理解して、養護教諭の理論と実践的な考察に発展させる科目であり、看護理論、看護倫理、看護過程を学ぶことで、看護の対象への尊厳と援助に対する基本的姿勢を培う。実務家教員として、養護教諭の活動の基礎となる看護学の概論について解説する。</p> <p>ヘルスアセスメントの基本と系統的なアセスメントについて解説し、学校で根拠ある的確な養護診断と救急処置が行えることを目指す。また、小児期の成長発達、健康、疾患と看護について解説し、学校保健活動での救急処置や保健指導等の保健管理のための基礎知識として理解を深める。</p>										
授業形態	講義と演習	授業方法	PBL、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション								
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<p>看護理念と看護倫理、看護過程、小児期の看護について理解を深め、養護教諭の専門性の基盤となる看護力と態度を培う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とは何か、自己の考えを表すことができる。</li> <li>2. 看護倫理について説明できる。</li> <li>3. 看護過程を理解し、養護の活動過程・養護診断に考えを発展できる。</li> <li>4. フィジカルアセスメントを理解し、説明できる。</li> <li>5. 小児期の特徴（発達、健康、疾患）を理解し、看護について説明できる。</li> <li>6. 救急処置の根拠を理解し、看護と援助について説明できる。</li> <li>7. 疾患や病態について信頼ある的確な情報収集を行い、整理・説明できる。</li> </ol>										
理想的レベル	標準的なレベルの全てを達成した上で、演習等の課題に積極的に取り組む。医学的知識かつ看護的ケアの理解を科学的根拠をもって深化させ、養護教諭としての学校保健活動における発展的な考察を加え、説明できるレベルを理想的なレベルとする。										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）					備考					
試験	50%										
小テスト											
レポート	20%										
発表（口頭、プレゼンテーション）	30%										
レポート外の提出物											
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	WE21511J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
予習：テキストと解剖学テキストの該当ページを読む。医学概論の復習をしておく。										4	

復習：テキストと配布資料等を整理し、該当する解剖生理学や疾患について併せて復習する。

### 授業計画

第1回	オリエンテーション 人と看護
第2回	看護とは：ナイチンゲールとハンダーソンの理論に学ぶ
第3回	看護とは：発表
第4回	看護史と看護理論
第5回	看護倫理と医療倫理
第6回	看護過程
第7回	養護教諭の活動過程(1)
第8回	養護教諭の活動過程(2)
第9回	養護診断に必要な技術(1)：ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント
第10回	養護診断に必要な技術(2)：心理・社会面・生活面のアセスメント
第11回	養護診断(1)：系統的アセスメント
第12回	養護診断(2)：緊急度の判断と対応
第13回	小児の成長・発達と健康、看護(1)
第14回	小児の成長・発達と健康、看護(2)
第15回	学齢期の子どもの健康課題(1)
第16回	学齢期の子どもの健康課題(2)
第17回	学齢期に多い症状と看護(1)：内科的症状①
第18回	学齢期に多い症状と看護(2)：内科的症状②
第19回	学齢期に多い症状と看護(3)：外科的症状①

第20回	学齢期に多い症状と看護（4）：外科的症状②
第21回	学齢期にみられる慢性疾患と看護（1）：アレルギー
第22回	学齢期にみられる慢性疾患と看護（2）：糖尿病
第23回	学齢期にみられる慢性疾患と看護（3）：心臓疾患
第24回	医療的ケアと看護
第25回	疾患と看護（1）：専門書調べと整理
第26回	疾患と看護（2）：発表
第27回	性に関する看護（1）：助産師の役割、活動の実際 講師：新郷、山田
第28回	性に関する看護（2）：思春期の健康相談と健康教育 講師：山田、新郷
第29回	看護学のまとめ（1）
第30回	看護学のまとめ（2）
テキスト	「養護教諭、看護師、保健師のための新版学校看護」（東山書房） 草川功『新版ここがポイント学校救急処置』、農山漁村文化協会
参考図書・教材/データベース・雑誌等の紹介	「系統看護学講座 解剖生理学」（医学書院）*解剖生理学のテキスト 「からだの地図帳」（講談社） 「小児看護学概論」「小児臨床看護各論」（医学書院） 「養護教諭のための看護学」（大修館書店） ほか、講義中に参考図書を紹介する
課題に対するフィードバックの方法	課題（プレゼンテーション資料）は個別にコメントを付けて返却する。 成績発表後に、評価点分布図を提示する。
学生へのメッセージ	看護学では、看護の基礎を学び、養護教諭の理論と実践的な考察に発展させていきます。医学概論、解剖生理学、微生物学等の関連科目の復習、子どもの発達過程や学校保健を理解しておくことが大切です。

ジ・コ  
メント

また、新聞、報道、ETV（教育関連の放送）等で、子どもの健康と発達に関する情報を収集して、子どもの健康課題に関心を持って講義に臨むと理解が深まります。